

平成31年度学校評価結果報告書

名古屋芸術大学保育専門学校

1 自己評価

(評価…A：よくできた B：できた C：あまりできなかった D：できなかった)

評価基準項目	評価	評価内容
基準1 教育理念・目的・育成 人材像等	B	めざす教育（建学の精神、教育理念、教育目標、めざす学生像、本学のカリキュラムの基本、求める学生像）は学生便覧に示している。昨年度、カリキュラムの基本の追加と文言の一部を修正したので、本年度の変更はない。カリキュラム、シラバスも昨年度は法改正に従い変更したものを今年度は実施している。学校の特徴は、同一敷地内にある2園（滝子幼稚園、たきこ幼稚園）と連携した授業・実習の実施、2つの資格（保育士、幼稚園教諭2種免許）が取得できる指定校であること、少人数指導が充実していること、名古屋芸術大学人間発達学部3年への編入ができること、学校独自科目（芸術科目）が充実していることなどの特長を挙げることができる。学校の将来構想としては、今年度から「質の向上」5カ年中期計画に従い重点項目を決めて見直しを進め、5年後の第3者評価の実施をめざしている。
基準2 学校運営	B	本年度、未整備であった教師会の規約を整備した。運営方針は教師会で審議し、共通理解を図っている。事業計画は、実践力と人間力を備えた幼稚園教諭・保育士の養成を目的とし、最終的には就職を目標とする事業計画を策定し、それに沿って運営している。学校全体で協議すべき事項は、校務分掌の担当者が立案し、企画委員会で検討したことを教師会で審議し、校長の了解のもと法人に提出している。人事・賃金での処遇に関する制度、研修に関わる規定は明確に整備されている。考課制度、昇進・昇格制度の整備は進んでいない。明文化されていないが、意思決定の権限等は共通認識されている。情報システム化による業務の効率化は、各教員にPCがあり、ソフト等も日常業務には差し支えない状態である。共通ファイルが情報の共有化に有効となっている。契約事務員が、パソコン操作相談、入試広報で活躍している。
基準3 教育活動	B	本学のめざす教育実現のため教育課程を編成している。育成の到達レベルを定め、進級会議、卒業判定会議で基準を適用している。また、職員間で具体的な到達レベルの共通認識を持つようにしている。カリキュラムは幼稚園教員養成課程、保育士養成課程の基準に基づき編成している。内容は、教員養成校再指定申請、保育士養成指定申請時にチェックされている。また、年2回の教育課程編成委員会や学校関係者評価委員会等において意見を聞き検討している。各科目は、シラバスを作成し、適切な位置付けをしている。学生による授業評価を学期末に各科目ごとに実施し、結果を担当者に知らせ、授業内容、授業方法等の改善を図っている。教員の資格審査については、教員養成校再指定申請、指導調査の審査対象となっているので、基準は明確である。さらなる専門性向上、指導力向上に向けて、研究・研修を計画的に進めている。成績評価、単位認定等は学則等で定めており、それに従い運営している。
基準4 教育成果	B	就職に関する指導として、基礎演習での指導、就職講習会、模擬試験、担任による個別指導等を実施した。就職希望者に対しては100%の就職率であった。就職成果とその推移に関する情報については明確に把握している。退学防止に向け、学生支援会議を開催し、教員間の情報交換を密にし、早期指導支援、少人数指導で対応して来たが、昨年度と比べ退学率が上昇した。入退学者数とその推移に関する情報については明確に把握している。
基準5 学生支援	B	就職・進学指導の体制は、入学から卒業まで就職担当者を中心に各担任が連携をとって指導している。基礎演習の時間等に、就職マニュアル活用し、就職オリエンテーションの実施、また、愛知県私立幼稚園連盟による説明会や就職内定者による就職懇談会を実施している。第二部については、担任が個別相談日を設定するなどして個別指導の充実を図っている。学生相談に関する体制は、年24回原則木曜日の午後4時半から6時までの時間に、外部の専門の心理カウンセラーによる学生相談室を開設している。また、クラス担任が学生相談には随時あつている。学生の経済的側面に対する支援は、日本学生支援機構奨学金、保育士修学資金以外に、本校独自の入学奨励金、学業成績優秀者給付奨学金、学費減免の制度がある。常に奨学金の情報開示を行い、奨学金全般の申請業務を担当する者を配置している。希望者が増加傾向にあり、今後、継続していく必要がある。学生の健康管理の体制は、年に一度、4月に健康診断を実施している。この他実習前の検便を実施している。医師・看護師は学校には常駐していないが、学生の休憩する部屋の確保はしている。ボランティア活動は、滝子幼稚園の夏祭りには、毎年参加している。また、チラシを掲示するなどの周知はしている。学生寮等の支援は、安心できる賃貸物件や提携する学生寮などを紹介している。保護者とは必要に応じて担任が連絡を取っている。前年度卒業生に対しては、6月に近況報告会、秋以降に就職先訪問を実施している。学生の生活環境への支援は、情報提供支援に留まっている。卒業生への支援体制は、同窓会が組織されているが、活発な活動はない。再学習などのフォローアップ体制はない。保護者との連携については、毎年、5月に後援会総会、教育懇談会を開催している。長期欠席学生や問題が生じた場合の保護者への連絡は、その都度行い、対応策等について調整している。

基準6 教育環境	B	施設・設備は、特別教室、体育館、レッスン室等があり充実している。幼稚園・保育所が敷地内にあり、保育を学習するのにふさわしい環境である。メンテナンス体制は法に準じて実施している。施設・設備の更新に関しては必要度に応じて実施している。学外実習はプレ実習、教育実習Ⅰ・Ⅱ、保育実習Ⅰ・Ⅱ、施設実習を現場と連携をとりながら実施している。実習後に実習意見交換会、評価票をもとにした個別面談、学生の報告会等を行い、教育の成果を確認している。海外研修、インターンシップは実施していない。防災体制は、マニュアルに従って行うようにしている。大地震への対策は、災害備品点検にとどまっている。ピアノに対しては固定対策は施している。実習時等の事故防止は、事前指導で事故防止教育を実施している。平成31年度は避難訓練、初期消火訓練、防災教育等を2回実施した。災害に備えた学生保険等については必要最低限の保障はしている。
基準7 学生募集と受け入れ	C	学生募集活動は、外部業者に依頼しデータ分析を行った。それを基に学校案内・オープンスクール案内の改善を行った。さらに、HPを更新し社会人向け案内、ブログの開設等を充実させた。募集活動においては、高等学校訪問、進学説明会を実施し、職業実践専門課程認可校等の本校の良さの説明、就職実績も伝えている。しかし、入学希望者の減少傾向は改善できていない。入学選考は、公平な基準をも設けており、選考方法は概ね適正である。
基準8 財務	C	学生定員が切れており、収入減となっている。主要な財務数値に関する情報と、その推移については正確に把握しているが、本校の財務基盤は人件費比率が高く、安定した状態であるとは言えない。国の補助金がないため、学生数の確保が重要であり、必要最小限で予算・収支計画を立てている。会計監査は法に従って毎回実施している。監査を受ける側、実施する側の責任体制、実施スケジュールも妥当である。財務情報公開の体制は、法人組織全体の財務情報をHPで公開している。
基準9 法令等の遵守	B	法令、設置基準等の遵守については、教師会や機会をとらえて啓発活動を行っており、概ね適正に遵守している。個人情報に関しては、取扱指針に基づき適正な取り扱いに心がけ、啓発活動も随時実施している。自己点検・自己評価は平成21年度より実施し、継続して問題点の改善に努めている。自己点検・自己評価の公開は、平成28年度よりHPで行っている。評価基準中項目の結果の公開であり、小項目までは公開していない。公開方針明文化はしていない。
基準10 社会貢献	C	隣接する幼稚園・幼児園との連携では、授業で作成した教材等を用いて、園児との交流会を実施している。施設・設備の開放については、要請があればできる限り受け入れる体制が整っている。中学生、高校生等の学校見学・体験も受け入れている。

2 学校関係者評価

評価委員：水越省三・武石協子・大畑領治・松尾ゆか

令和元年度 自己点検・評価結果に対する学校関係者による意見と評価

(評価…A：よくできた B：できた C：あまりできていない D：できていない)

基準1 教育理念・目的・育人材像等	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教育理念・目的・育人材等は分かりやすく示されている。 ・理念や目的をどのように具体的な活動に結びつけていくか、が大切なことになってくる。より実践的な教育を進めて欲しい。
基準2 学校運営	B	<ul style="list-style-type: none"> ・運営組織や意志決定機能は効果的に働いているようであり、概ね順調に運営されていると感じる。 ・今後、ますます情報のシステム化が課題となってくる。社会全体の動きを見据えながら進めていってほしい。
基準3 教育活動	B	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度よりカリキュラムが大きく変わったということであるが、適性に位置づけられていると感じる。 ・学生による授業評価を実施し、授業改善に生かしているのはよいことである。評価の結果をしっかりと受け止めて欲しい。 ・成績評価等、明確な基準の下でなされていることがうかがわれた。
基準4 教育成果	B	<ul style="list-style-type: none"> ・資格取得率、就職率が100%であり、教育理念・目的が十分に達成された成果が現れている。 ・就職指導が計画的に行われていることが感じられた。そのことが就職率につながっている。

		・教育の成果はよく上がっている。
基準5		・就職等に関しても個別の相談が行われており、成果にもつながっている。
学生支援	B	・学生相談室の開設など相談体制が整備されているようでよい。学業や就職の問題だけでなく、いろいろな問題について支援していくことが大切である。 ・カウンセラーの配置がされており、支援体制がある。 ・同窓会がうまく機能して、卒業生に対しても何らかの支援ができるようになるとよい。
基準6		・毎年全国各地で地震等による被害が発生している。これからも防災の問題にはしっかり取り組んでもらいたい。
教育環境	C	・既存の施設を有効に活用して成果を上げて欲しい。
基準7		・学生募集に向けた活動はしっかり行われているが、それが成果に現れてこないことが残念である。
学生募集と受け入れ	C	・定員割れは残念。この学校のよさをもっと周知していきたい。
基準8		・学生募集に力を入れ、収入を安定させることが大切。
財務	B	
基準9		・各種法令等に基づき、適正に進められていると思われる。
法令等の遵守	B	・こうした評価の結果を確実に生かしていきたい。
基準10		・あまり地域との関わりが感じられない。
社会貢献	C	・外部の人を学校へ招くだけでなく、学生の方から学校外へ出て活動するような取組もあるとよい。 ・近隣の地域だけではなく、範囲を拡大させて、社会貢献から学校の知名度向上と将来の生徒拡大に繋げられるのではないかと思う。
今後の課題について		・従来の一斉保育・教育から、個々の特性を大切にしつつ主体的な学びを実現するための「環境による保育・教育」への転換が全国的なうねりを見せている。保育者養成校もこの流れに呼応した養成が求められている。基礎的な事柄を大切に理解を深めていくことを望む。 ・幼稚園、幼児園の手伝いだけでなく、地域の子育てサロン等に関わり、地域とのつながりや貢献を考えることで、園とは違う何かを学ぶ機会としたい。

3 今後の課題

基準1 教育理念・目的・育成人材像等	
1-2 学校の特色はなにか	滝子幼稚園、たきこ幼児園、名古屋芸術大学等との連携を深め、より実践的な授業を導入する。
基準2 学校運営	
2-4 事業計画は定められているか	積極的に新規事業に取り組むとともに、それぞれの事業計画が目標・目的に沿ったものになっているか、企画委員会、教師会の場で検討していく。
2-9 情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	学生に関する情報、実習園と実習に関する情報、就職園と就職に関する情報、関係団体に関する情報、等、学内事務の効率化のための情報システム化について継続的に検討していく。
基準3 教育活動	
3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか	「教育課程編成委員会」「学校関係者評価委員会」等の指導・助言、関係団体からの情報等を踏まえ、全教員でより時代に沿ったニーズについて検討する。
3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか	法令等を遵守しながら、学生アンケートの結果や教員研修の成果等を踏まえ、適切な授業形態や指導方法の改善に取り組む。
基準4 教育成果	

4-20 退学率の低減が図られているか	退学を検討している学生に対して、個別相談により将来を見通した修学継続の道を具体的に示すとともに、修学期間の見通しをもてるよう、全体的な指導を意識的に行う。
基準5 学生支援	
5-24 学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能しているか	分納の取扱について明確にするとともに、有効な奨学金制度や奨学金制度について模索する。
5-29 卒業生への支援体制はあるか	フォローアップメニューを検討するとともに、同窓会組織を明確にし、活動の活性化を促す。
基準6 教育環境	
6-30 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できよう整備されているか	図書の充実、IT化を更に進め、学生の情報収集や処理の環境を充実させるまた、特別教室のいっそうの充実を図る。
基準7 学生の募集と受け入れ	
7-33 学生募集活動は、適正に行われているか	※令和2年4月より、新たな学生募集を行わないこととなった。
基準9 法令等の遵守	
9-43 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	自己点検・評価に際し法令遵守を念頭に置く。また、企画委員会や教師会の場で方針を確認し、評価項目を本校にあった内容に改めるとともに、問題点の改善は速やかに着手する。
基準10 社会貢献	
10-45 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか。	施設開放等の担当者を明確にするとともに、地域の連携可能な諸団体と話し合いながら進めていく。

※この学校評価結果報告書は、名古屋芸術大学保育専門学校ホームページにおいて情報公開している